



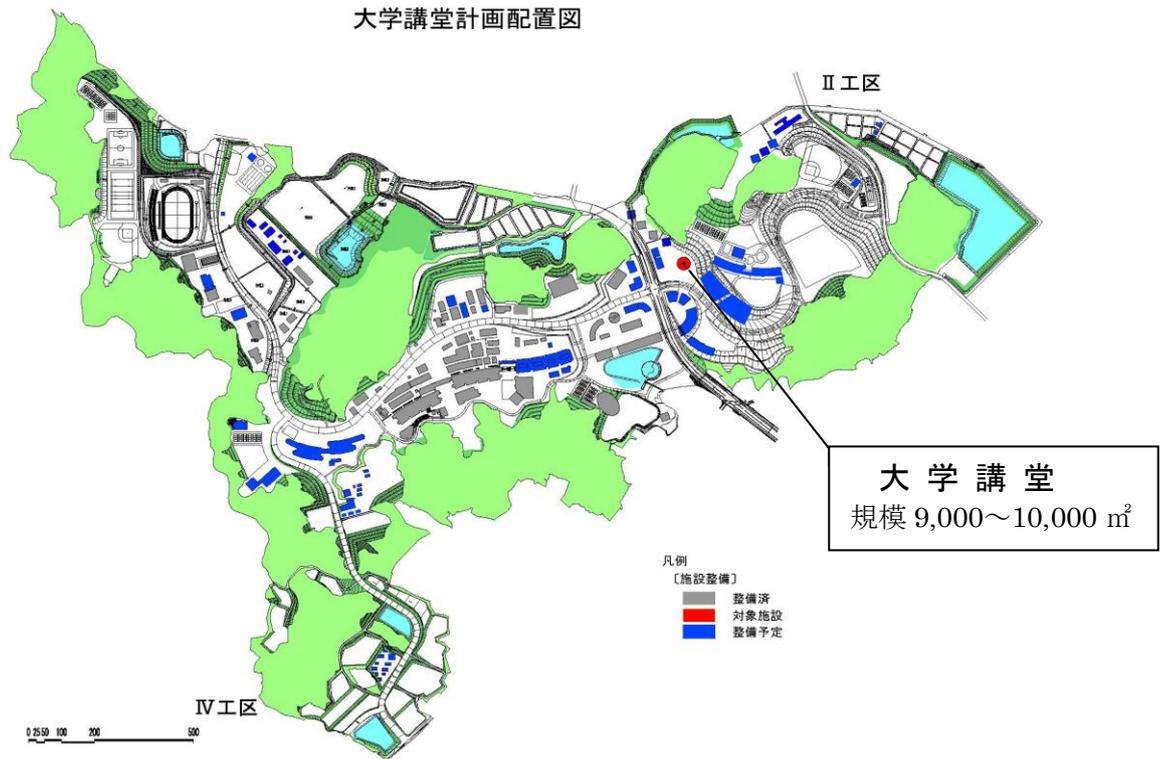
九州大学講堂の寄附について

2011年に創立百周年を迎えた国立大学法人九州大学は、椎木正和様より九大百年を記念して大学講堂の建設費をご寄附いただくこととなりました。

大学講堂の概要

- ① 建物名称 「椎木講堂」
- ② 寄附者 椎木正和氏 (しいき教育文化振興基金会長)
- ③ 建設場所 福岡市西区元岡744番地 (伊都キャンパス内)
- ④ 床面積 9,000~10,000㎡
- ⑤ 設計・工事監理 株式会社 内藤廣建築設計事務所
- ⑥ 工事着工 平成24年11月 (予定)
- ⑦ 完成 平成26年 2月 (予定)

大学講堂計画配置図



【お問い合わせ】

総務部次長 (兼) 百周年記念事業推進課長 市山郁生

電話 : 092-642-3823 FAX : 092-642-2113

Mail : syckacho@jimu.kyushu-u.ac.jp

大学講堂

— 計画の基本方針 —

九大百年を象徴し、学生や教職員の誇りとなり、市民を惹きつけ、新しい学術芸術文化の拠点となる講堂をつくる。

そのため、象徴性、先進性、持続性を有する施設とする。

1. 象徴性

百年の歴史と伝統を基礎とし、新たな百年に向けて、最高水準の学術研究を推進する九州大学にふさわしい象徴性を有する施設とする。

- 「九大百年」、九州大学の「これまでの百年」と「これからの百年」を象徴する外観の建物とする。
- 新たな百年に向けて躍動する九州大学の核となる施設とする。

2. 先進性

大学講堂としての機能に加え、地域社会・国際社会・学界等の要請にも対応できる先進性を有する施設とする。

- 大学の主要行事（入学式、卒業式等）に対応する人員を収容できる施設とする。
- 学内外の多目的な利用に対応しやすい施設とする。

3. 持続性

日常の管理・運営を十分に反映し、多目的な利用に対応しやすく、時代を超えて使われる持続性を有する施設とする。

- 大学の中核機能（管理運営等）を有し、日常的に使用できる施設とする。
- 低炭素社会、循環型社会に貢献する施設とする。

(2011/11/07)